

達人シリーズ第2弾

追憶・西関東の 鉄道貨物輸送

～鉄道貨物研究家・
渡辺一策氏の

フィールドノートから～



高麗川駅に接続する日本セメント埼玉工場専用線のバラセメント専用列車 昭和42年(1967)6月25日 渡辺一策氏撮影

2014年 5月3日(土・祝)～6月29日(日)

【開館時間】午前10時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

【休館日】5月7日・12日・19日・26日・27日、
6月2日・9日・16日・23日・24日

【入館料】高校生以上200円/65歳以上100円
中学生以下無料

*団体20名以上半額

*地下1階の常設展示もご覧いただけます

【交通】JR・京浜急行 品川駅 高輪口徒歩7分
都営浅草線 高輪台駅 A1 出口徒歩7分

講演会「高度成長を支えた西関東の鉄道貨物輸送」

開催日:6月8日(日)・21日(土)

時間:14時～16時

講師:渡辺一策氏

定員:50名

参加費:無料、但し入館券が必要です

参加方法:5月8日以降に電話にてご予約ください

TEL 03-3280-1616(午前10時～午後5時)

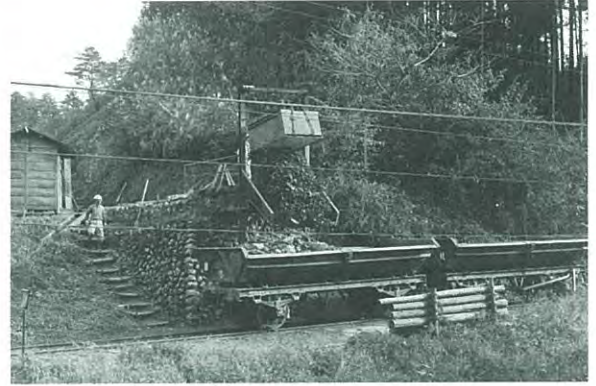


追憶・西関東の鉄道貨物輸送

～鉄道貨物研究家・渡辺一策氏のフィールドノートから～

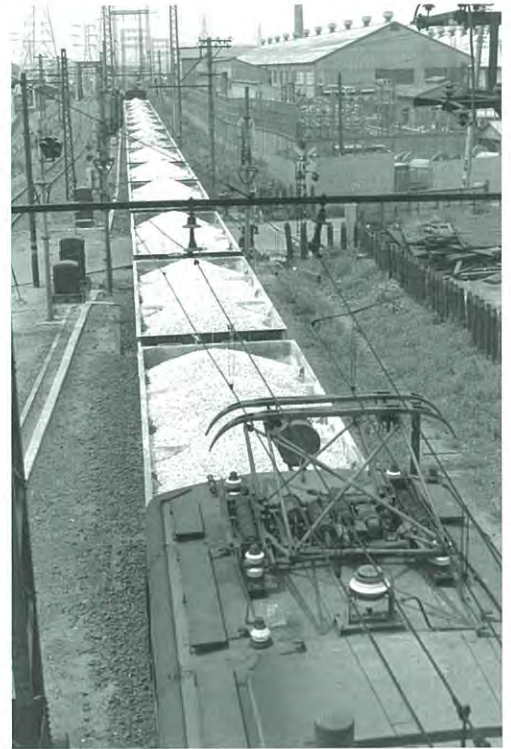
物流ワールドに魅せられて、いろいろな趣味を極める達人たちを紹介するシリーズ企画の第2弾。

今回は、日本の鉄道貨物愛好家の草分けの一人で、鉄道貨物輸送研究を趣味として長年続けてこられた渡辺一策氏とともに、高度経済成長期の西関東の資材輸送を中心とした鉄道貨物輸送を回顧します。

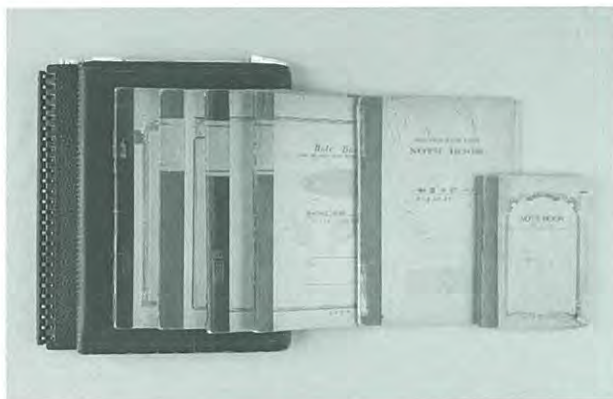
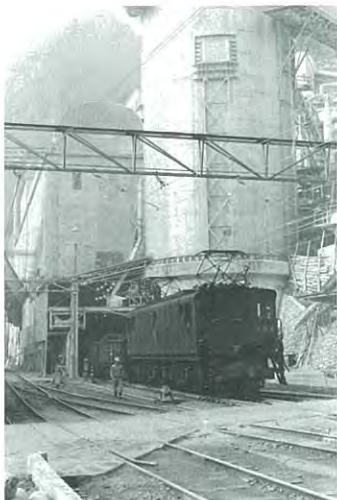


渡辺一策氏は、昭和40年(1965)頃から鉄道貨物輸送に関心を深められ、主に西関東地区*をフィールドとして各路線の調査活動を実施、また、1980年代後半以降は各鉄道雑誌への寄稿や単著の刊行など、貨物輸送に関する多くの著作を発表してこられました。日本の鉄道貨物愛好家の草分け的な存在の一人といえるでしょう。

本展では、こうした渡辺氏の長年にわたる活動の中から、とくに高度経済成長期からオイルショック後の時代にかけて行われた調査活動の成果に注目し、西関東の鉱石を中心とした資材輸送について紹介を行います。鉄道貨物全盛期だったともいえる高度経済成長期、なかでも西関東の鉱石輸送は、主に採掘された自前資源を輸送したところに特徴がありました。渡辺氏はこの点に興味を感じて調査活動を行い、詳細なフィールドノートと写真記録を残しています。これらの記録を通し、渡辺氏が目撃した昭和40年代から50年代にかけての西関東の資材輸送を復元し、往時の実態に迫ります。

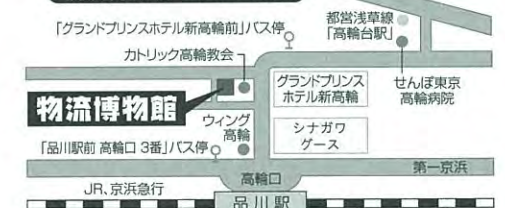


*「西関東地区」について：本展で「西関東」と称している地域は、昭和44年(1969)、東京鉄道管理局から分割された東京北、東京南、東京西、の3管理局のうち、東京西局に属する地域を基準とし、国鉄のほか、地域内で貨車連絡輸送があった私鉄も含めています(ただし山手線の一部を除き、また一部の他局管内を含めています)。



左上より時計回りに：①青梅線を走る石灰石・生石灰専用列車 昭和40年(1965)9月5日 ②粘土の積み込み 五日市線・大久野駅構内 昭和40年11月20日 ③浜川崎駅に到着する石灰石列車 昭和41年8月1日 ④西武多摩川線・競艇場前駅の砂利積替え設備 昭和36年(1961)1月29日 ⑤渡辺一策氏のフィールドノート 昭和29年(1954)～昭和56年(1981)使用 ⑥青梅線・氷川駅(現・奥多摩駅)の氷川貯鉱槽と石灰石列車 昭和40年6月2日 *⑤以外全て渡辺一策氏撮影

物流博物館へのアクセス



電車 ●品川駅(JR, 京浜急行)下車…徒歩7分
高輪台駅(都営浅草線)下車…徒歩7分
バス ●品川駅前高輪口バス乗り場3番 都営バス 品93乗車(目黒駅方面行)
グランプリンスホテル新高輪前 下車…徒歩1分